

第1学年O組 保健体育科学習指導案

令和3年〇月〇日 〇曜日 第〇時 (体育館)
指導者 〇 〇 〇 〇

1 単元 球技 (ネット型：バドミントン)

2 単元の目標

- (1) バドミントンの特性や成り立ちを理解し、空いた場所をめぐる攻防を展開することができる。
- (2) 適切な自己の課題を発見し、合理的な課題の解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の動きについて考えたことを仲間に伝えることができる。
- (3) タスクゲームやメインゲーム、課題練習などに積極的に取り組みとともに、課題解決に向けた話し合いに参加しようとしたり、仲間の学習を援助したりすることができる。

3 学習の計画 (12時間完了)

- 第1次 第1時 試しのゲームを行う。
- 第2次 第2時～第5時 スキルアップドリルやタスクゲームを通して、基本的なラケット操作と定位置に戻る動きを身に付ける。
- 第3次 第6時～第7時 相手が操作しやすい位置にシャトルを打ち、ラリーを続ける。
- 第4次 第8時 (本時) 得点につながる攻撃について考え、ゲームを行う。
第9時～第11時 空いた場所をめぐる攻防について考え、ゲームを行う。
- 第5次 第12時 リーグ戦を行う。

4 本時の学習指導

(1) 目標

- 相手が返球しにくい場所への攻撃について考え、繰り返し試すことができる。

(2) 準備・資料

- 生徒……学習プリント、筆記用具
- 教師……ラケット、シャトル、支柱、ネット、タイマー、得点板、タブレット端末

(3) 関連

- 1年 保健体育 球技 (ベースボール型：ソフトボール) (基本的なバット操作と走塁での攻撃をする)
- 3年 保健体育 球技 (ネット型：バレーボール) (空いている場所を作り出して攻撃したり、その攻撃に対応して守ったりする)

(4) 学習過程

段階	学 習 活 動	時間	指 導 上 の 留 意 事 項
課題をつかむ	1 本時の学習内容を確認する。 (1) チームごとに集合、整列する。 (2) 準備運動を行う。 ・ ネットを挟んでペアでラリー (3) 本時の学習課題をつかむ。 得点につながる攻撃をしよう。	10	○ 服装チェック、健康観察を行う。 ○ 主運動につながる簡単な準備運動を全体で行う。その後、チームに分かれてラケットを使った運動に取り組ませる。 ○ 身に付けさせたい攻撃の動きについて考えられるように発問を投げ掛ける。 ○ 課題に対する自分なりの考えをもって試しのゲームに取り組むことを伝える。
	2 試しのゲームを行う。 ・ 1 ゲーム 1 分30秒のシングル戦	20	○ 自分の考えたことを、試しのゲームの中で試させる。
	3 チームごとに課題練習を行う。		

課題を追究する	<p>(1) 自分の考えを修正する。</p> <p>○ 試しのゲームを通して、自分の考えを見直し、修正した考えを書く。</p> <p>(2) 個々の考えをチームで共有する。</p> <p>(3) 共有した考えを基に、修正した動きを試す。</p>	35	<p>○ 自分の考えをもてない生徒には、どんな状況で得点を取ることができたかを振り返らせるように個別に声掛けを行う。</p> <p>○ 個々の考えをチーム内で発表させる。</p> <p>○ 得点につながる動きになるように生徒同士で声掛けができている姿を称賛する。</p> <p>○ チーム内で仲間の動きを観察させたり、必要に応じて、タブレット端末で仲間の動きを記録させたりする。</p> <p>評 相手が返球しにくい場所について考え、繰り返し試している。(課題練習)</p>
	<p>4 修正した考えを確認するメインゲームを行う。</p> <p>(1) 1 ゲーム 1 分30秒のシングル戦を行う。</p> <p>(2) メインゲームを通して見直した考えを学習プリントに記述する。</p>	45	<p>○ 得点につながる動きについて称賛して回り、意識付けを行う。</p> <p>○ 自己の考えを見直した結果を記述させる。</p> <p>評 相手が返球しにくい場所を見付けるために繰り返し試し、学習プリントに記述したり、チームの仲間に伝えたりしている。(課題練習、学習プリント)</p>
	<p>5 本時の学習のまとめを行う。</p> <p>(1) 学習プリントに振り返りを記入する。</p> <p>(2) 次時の学習予定を知る。</p>	50	<p>○ 健康状態を確認する。</p> <p>○ 本時の学習の振り返りをさせ、次時の活動の見通しをもたせる。</p>

(5) 本時の評価規準

- 得点につながる攻撃について考えたことを試したり、チームの仲間に伝えたりしている。

(課題練習、学習プリント)

5 備 考

(1) 学級の実態

- 本学級は用具を操作する「ネット型」を経験している生徒は若干名である。そこで、中学校1年生の段階におけるバドミントンの学習では、自分と味方の適切な位置取りを考えることが必要なダブルス戦ではなく、相手の返球に備えた自分の適切な位置取りを考えるシングル戦で学習を進めていく。そして、ラケット操作を身に付けることと、「相手側コートからきたシャトルを相手コートに返す」ための動きを身に付け、高めることをねらいとして学習を行っていく。

(2) 指導の力点

- 学習内容を「得点につながる攻撃の動き」とし、自分で考えたことをゲームや課題練習で繰り返し試しながら修正していくという流れにしている。タブレット端末やチームの仲間の客観的視点を取り入れながら思考させていくことで、学習課題の合理的な解決に向けて工夫することができるように学習過程を構成している。